

消える市民活動拠点

「たからや」3月末閉鎖 倉吉

倉吉市の市民活動拠点「シビックセンターたからや」(同市宮川町)が、耐震性とアスベスト(石綿)の問題から3月末で閉鎖される。代替施設はなく、活動拠点を各自で確保する必要に迫られている入居団体からは、異分野の団体が「一つ屋根の下」に集う場の閉鎖を惜しむ声があがっている。

同施設は、2003年に鳥取市内の業者が市に無償譲渡した旧大型スーパー店舗で、04年9月に市民団体の活動拠点としてオープン。1日現在で19団体が事務所に、9団体が活動場所に利用している。同市の石田耕太郎市長は閉鎖後に建物を解体し、跡地に観光駐車場を整備する考えを打ち出している。

市は昨年12月18日に利用団体に今後の方針を説明した。代替施設として検討してきた市内のスーパーとの改修費な



さまざまな団体と活動拠点となっているシビックセンターたからや

代替施設なし 異分野交流惜しむ声

どの交渉が不調に終わり、移転希望団体も少ないため、「スーパーの利用は難しい」と各自で活動拠点を確保するよう要請。入居団体は市の方針を甘受しつつ「見限られた感がある」「人道的にどうか」と厳しい意見も相次いであがった。

同施設にはNPO法人、ボクシングクラブ、演劇団体、工房、福祉団体、組合など多種多様な団体が入居している。NPO法人が指定管理者となった「市民による市民の活動拠点」としてだけでなく、団体同士の情報の共有や発信の場ともなっている。

1階ホールで週4回、教室を開いている太極拳「華華俱樂部」の岡本真由美代表は「人と人、団体と団体がつながることはとても重要」と地域活性化に活動拠点は不可欠なことを強調し、「倉吉を元気に」という話はよく聞けるが、拠点を壊しては元気がならない」と市の方針に注文を付ける。

市総合政策課は「公の施設はそれぞれ使用目的があり、適当なところはない」とし「拠点がなくても支援できる方法がないか模索していく」と話している。